

# 「情報専門職」の育成

九州大学統合新領域学府  
ライブラリーサイエンス専攻  
における教育

九州大学附属図書館研究開発室・准教授

石田栄美

2022年7月13日

「オープンサイエンス時代における大学図書館の在り方検討部会」



九州大学大学院 統合新領域学府  
ライブラリーサイエンス専攻



九州大学

# ライブラリーサイエンス専攻の概要

1

平成21(2009)年度設置

大学院 統合新領域学府

## 学府のコンセプト

出口(ユーザーの視点)から  
科学を再構築する。



オートモーティブサイエンス専攻



ユーザー感性学専攻



ライブラリーサイエンス専攻

- 学府名: 大学院統合新領域学府  
Graduate School of Integrated Frontier Sciences
- 専攻名: ライブラリーサイエンス専攻  
Department of Library Science
- 学位名: 修士(ライブラリーサイエンス)  
Master of Library Science  
博士(ライブラリーサイエンス)  
Doctor of Library Science
- 入学定員: 修士課程 10名  
博士後期課程 3名
- 開設時期:  
修士課程 平成23(2011)年4月  
博士後期課程 平成25(2013)年4月
- 施設整備: 箱崎キャンパス→伊都キャンパス

現代社会における情報の管理・提供に関する課題

- デジタル情報の増加・流通
- ユーザーの要求の変化・多様化・高度化



「図書、文献、文書、記録などの資料(情報)の高度な組織化に基づく、新たな情報提供法の実現とサービスの提供の必要性」



「個々の情報の提供を性格を見極め、適切に対応するためには、主題領域について一定の専門的知識を持ち、情報の管理・提供に関する専門的な知識を有する「情報専門職」の介在が不可欠」

## 「大学図書館の整備について(審議のまとめ)」

–変革する大学にあたって求められる大学図書館像–(2010年12月)\*

- 大学図書館職員の業務内容の変化
- 大学図書館職員に求められる資質・能力等
  - 大学図書館職員としての専門性
  - 学習支援における専門性
  - 教育への関与における専門性
  - 研究支援における専門性

## 大学図書館職員の育成確保の在り方\*\*

- 図書館情報学以外の学問を修めた上で大学院に進学し、主題知識を活かして図書館情報学を学ぶことが望ましい。
- 現場における育成は個々で行うのは難しい。大学間における人材交流など、連携が重要である。

\*大学図書館の整備について(審議のまとめ) [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/toushin/1301602.htm)

\*\*有川節夫, 渡邊由紀子. 大学図書館職員の育成・確保に向けた新たな取り組み (特集 大学図書館2011). 図書館雑誌. 2011, 105(11), p. 738-740.

## ■ ビッグデータの出現・ICT環境の発展

- ビッグデータの解析には情報技術的な観点だけでなく、プライバシー保護や法令、データ管理・継承といった多様な観点が必要

## ■ オープンサイエンス運動の高まり

- データのオープン化とそれらを用いた新たな科学技術の創出（オープンサイエンス）は日本だけでなく世界における課題
- データベース等の基盤整備だけでなく、データの流通手法の整備や、異なるデータを結びつけ、新たな価値を作り出せる人材が必要

## ■ ユーザー視点に立つ情報提示

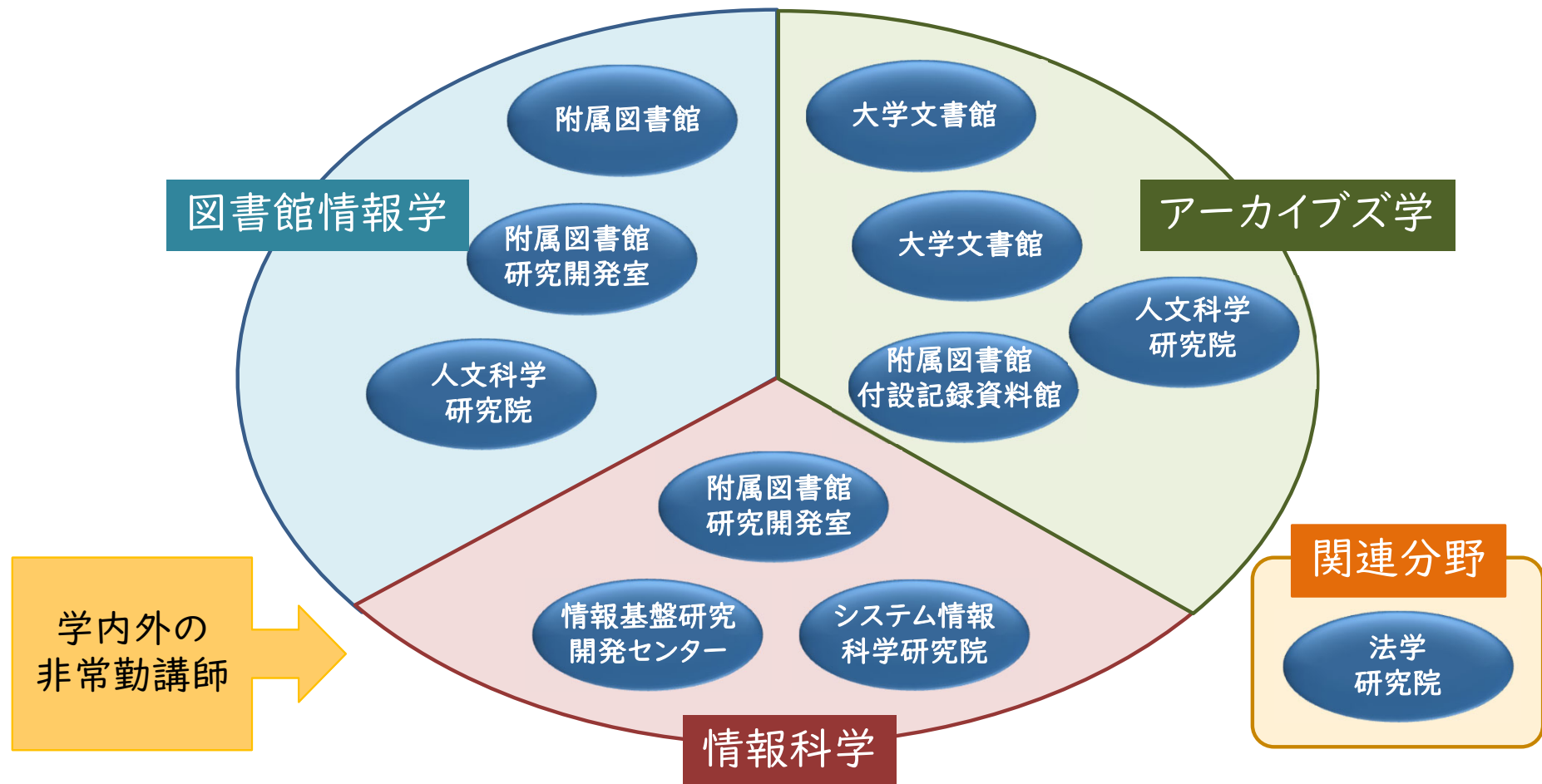
- 従来扱ってきた分類・構造化されたデータだけでなく、構造化されていない大量のデータとユーザーを結びつけるための仕組みが必要

## ■ データ管理専門職の必要性

- 多様かつ大量のデータを活用するためには、データを解析する人材だけでなく、データ個々の情報の性格を見極め、適切に整理・維持・提供できる人材が必要

- 理念：  
ユーザーにとって真に意義ある情報の管理・提供の実現
- 教育研究上の目的：
  - ユーザーのニーズと知の創造・継承プロセスを把握するための理論や技能に関する教育
  - 図書館情報学と記録管理学を統合した一体教育
  - 情報の管理・提供を実現するための、データ工学を含む情報通信技術の教育
  - 電子媒体の情報も対象とした、情報法制の現状ならびにその哲学に関する教育と流通制度に関する教育
  - これからの情報の管理・提供のあり方、知の創造・継承活動を支える「場」の新たな機能などについて探求する能力を身に着けさせる教育

- 養成する人材像
  - 記録管理の専門家
  - 特定領域の情報専門職
  - 情報を管理・提供する機関や部門の管理責任者
  - 情報ユーザーの視点に立つデータ工学の専門家
  - 「ライブラリーサイエンス」の研究者



## 【特色】

- 学府・研究院制度を活用した多様な分野からの参画
- 現職の大学図書館職員が専任教員として参画
- 記録管理の業務に携わる民間企業からの非常勤講師



## 【修士課程】 修了要件 36 単位以上

### 学府共通科目

統合新領域最先端セミナー  
英語科学論文の書き方と  
国際会議でのプレゼンテー  
ション技術

### 特別研究

特別研究 I・II

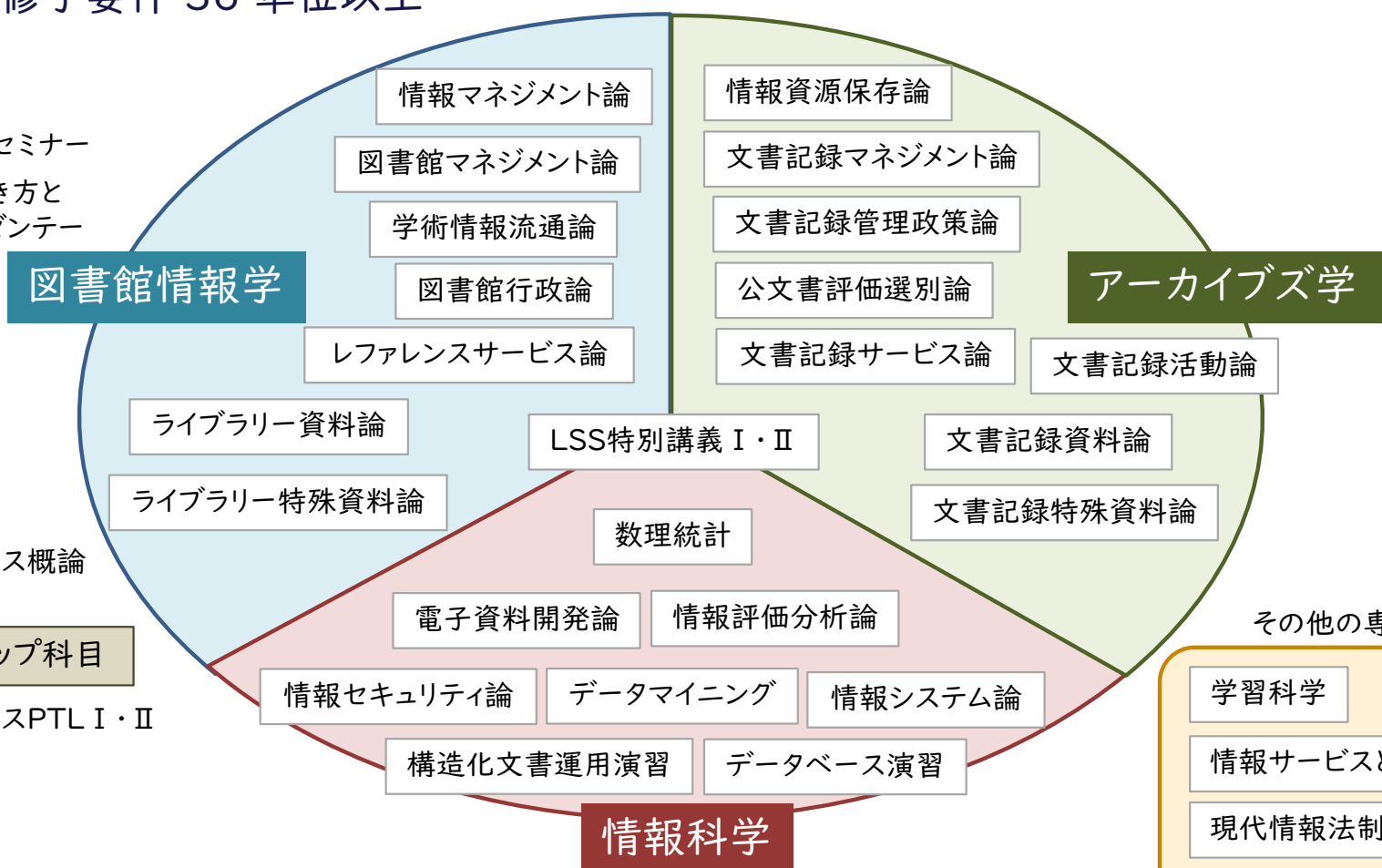
### 基礎科目

ライブラリーサイエンス概論

### PTL・インターンシップ科目

ライブラリーサイエンスPTL I・II  
インターンシップ

### 専門科目(選択)



## 【博士課程】 修了要件 14単位以上

ライブラリーサイエンス特別研究  
ライブラリーサイエンス特別演習  
ライブラリーサイエンス講究

※ 基盤的知識・能力が不足する場合、修士課程で開設されている授業科目を履修するよう指導

※ 本学府他専攻, および他学府の科目も可(合計4単位まで)

## 国際的組織のiSchoolsに参加(2018年～)



The screenshot shows the iSchools website interface. At the top left is the iSchools logo, and at the top right is a user profile icon. Below the logo is the tagline "Leading and Promoting the Information Field" and a "Member Info" link. A navigation menu includes "Home", "About", "iConference", "Our Stories", "Members", "News", "Jobs", and "Resources". A "Back to list" link is also present. The main content area features a news article titled "Kyushu iSchool becomes full iSchools member" with a date of 12 Jul 2019 18:12. The article text states that the Kyushu University Graduate School of Integrated Frontier Sciences is now a full member of the organization. A sidebar on the right lists recent news items, including "iConference 2021 Keynote Speakers Announced" and "ALISE seeks nominees for Innovation Award". At the bottom right, there is a "FOLLOW US ON" section with social media icons for Facebook, Twitter, and LinkedIn, and a link to "Tweets by iSchools".

**iSchools** Leading and Promoting the Information Field

[Member Info](#)

[Home](#) [About](#) ▶ [iConference](#) ▶ [Our Stories](#) ▶ [Members](#) ▶ [News](#) ▶ [Jobs](#) ▶ [Resources](#) ▶

[Back to list](#)

### **Kyushu iSchool becomes full iSchools member**

[iSchools News](#) (Administrator) | 12 Jul 2019 18:12

The iSchools organization is pleased to announce that the [Kyushu University Graduate School of Integrated Frontier Sciences](#) is now recognized as a full member of the organization at the Basic level. The Kyushu iSchool first joined the [iSchools association of more than 100 information schools](#) in 2018 as an Associate member, and the school recently petitioned the iSchools board of directors for full membership. That request was granted in early July of 2019.

The Kyushu iSchool is located in Fukuoka, Japan and is headed by Dean Professor Kazunori Shidoji; the school's iSchools representative is Dr. Emi Ishita.

The iSchools Associate level is for schools that are new or may not meet the requirements for other levels. Associate members are invited to petition for full membership when their circumstances so warrant. Once full membership is granted, each iSchool may choose the membership level that it feels best represents their relationship with the organization.

**NEWS**

[iConference 2021 Keynote Speakers Announced](#)  
1 Mar 2021 22:12 | [iSchools News](#)

[ALISE seeks nominees for Innovation Award](#)  
1 Mar 2021 20:00 | [iSchools News](#)

[Georgia Tech's Jessica Pater wins iSchools 2021 Doctoral Dissertation Award; Souvick Ghosh from Rutgers is runner up](#)  
25 Feb 2021 01:52 | [iSchools News](#)

**FOLLOW US ON**

[f](#) [t](#) [in](#)

[Tweets by iSchools](#)

<https://ischools.org/news/7776960>

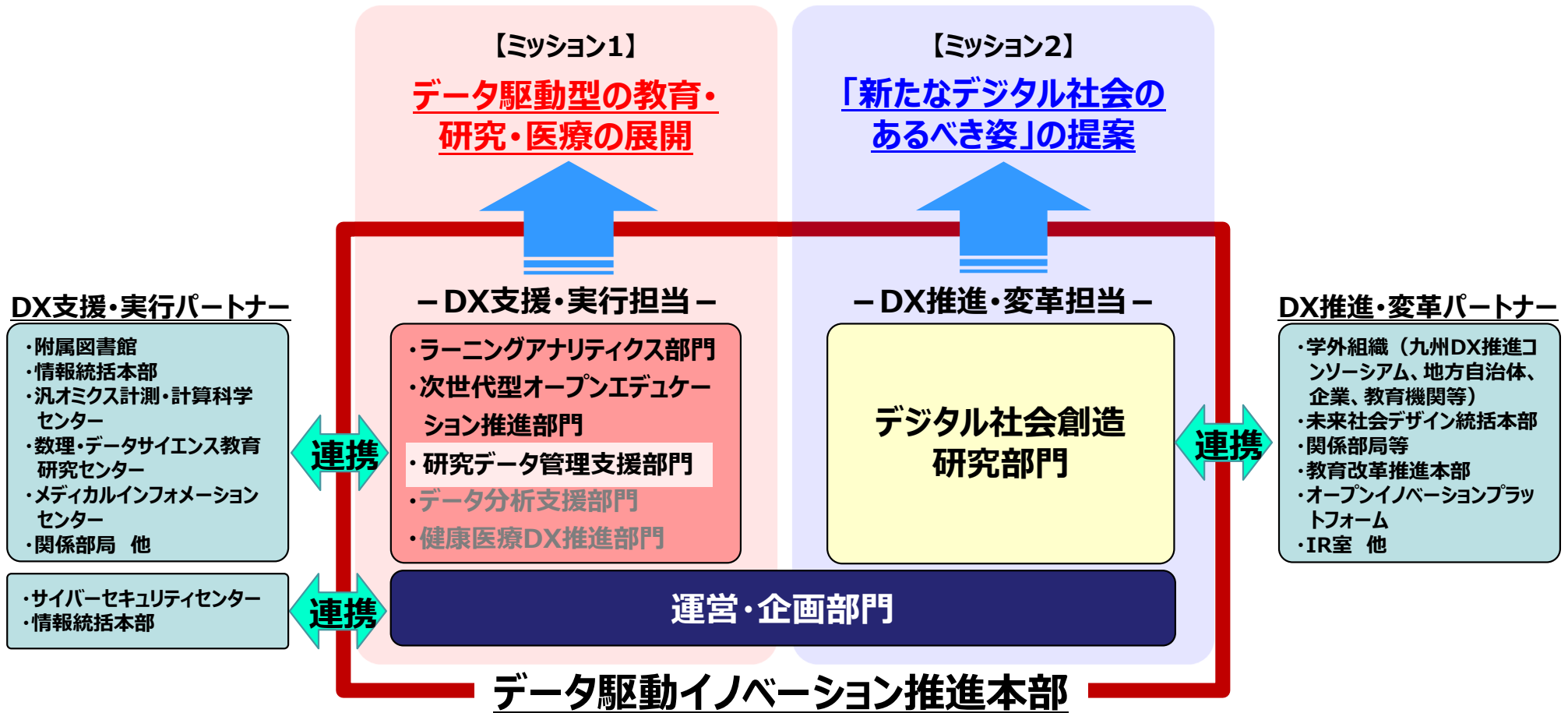
# LSS主催・共催シンポジウム等(2017年以降開催分)<sup>10</sup>

- シンポジウム「オープンデータとデジタルヒューマニティーズ」(2017.1)
- IIFワークショップ in 九州(2017.10)
- シンポジウム「情報管理専門職をめぐる民間企業と大学・学界」(2017.11)
- Computational Archival Science (CAS) 講演会(2018.1)
- ワークショップ「公文書管理法時代における自治体のとるべき施策」(2018.10)
- 国際シンポジウム「高等教育の国際化と大学図書館」(2018.12)
- シンポジウム「オープンデータと大学」(2019.1)
- セミナー「自治体がつくる公文書館理時代」(2019.10)
- シンポジウム・ワークショップ「大学における研究データサービス」(2019.12)
- シンポジウム「情報ガバナンスと文理融合教育の課題」(2020.1)
- セミナー「はじめての研究データ管理とそのサポート」(2021.2)
- シンポジウム「遠隔医療とデータ・ガバナンスの共創」(2021.3)
- シンポジウム「情報管理組織のミッションと専門職養成」(2021.11)
- シンポジウム「図書館と社会融合:社会に開かれた情報資源」(2021.12)
- 九大・イリノイ大学コロキウム「デジタルフォーメーション(DX)時代のデータキュレーションと情報管理」(2021.12)
- 国際会議iConferenceの共同ホスト(2022.3)

- 附属図書館職員の入学者
  - 修士課程:2名
  - 博士課程:2名
- 人事交流を利用した入学者
  - 修士課程:2名
- ライブラリーサイエンス専攻から附属図書館へ就職
  - 修士課程:2名

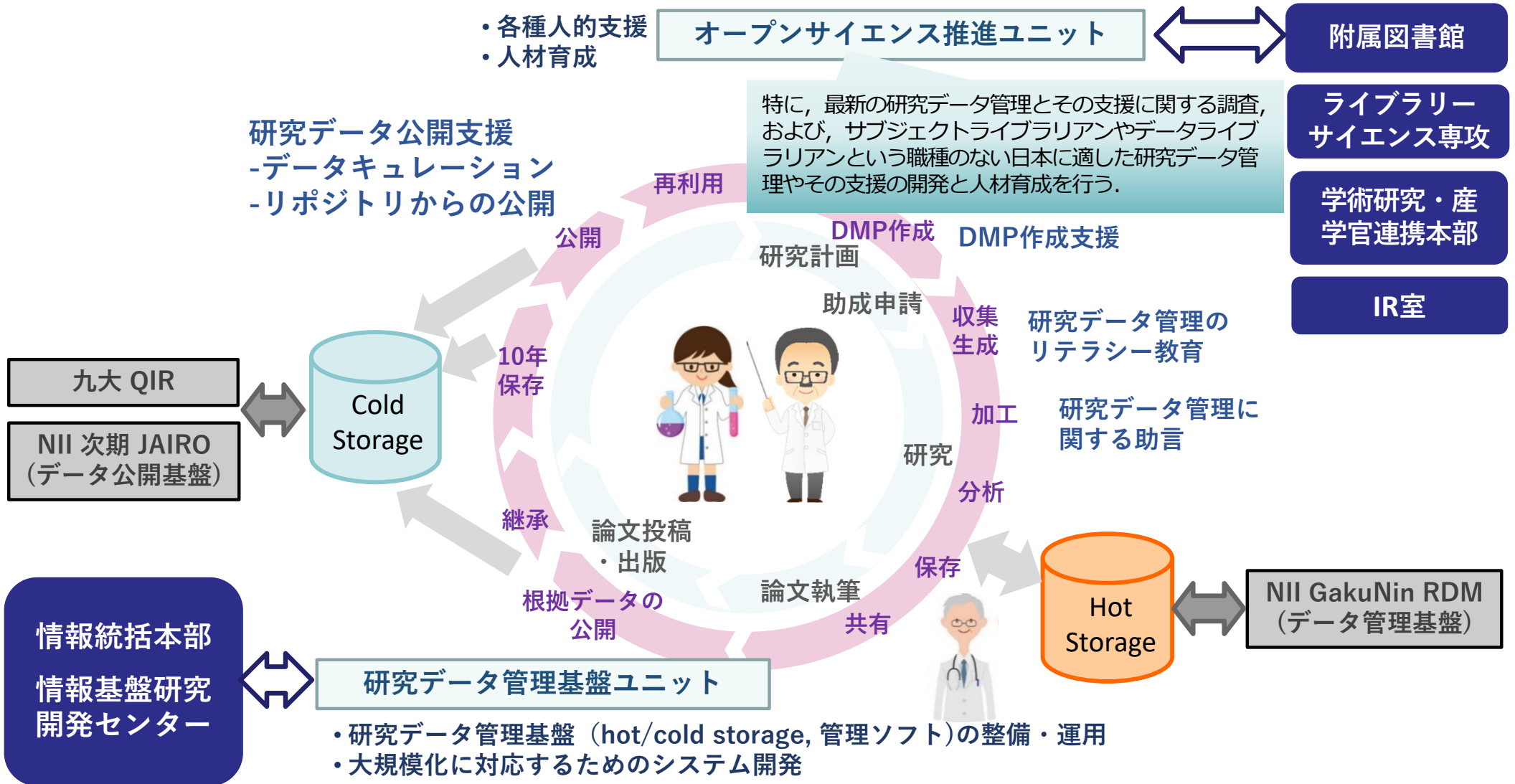
- オープンデータの推進
- 研究プロセスの変化
- データ駆動型研究の登場
- 研究データ管理計画
- 研究データ管理・保存
- 研究データ管理支援
  - 研究者、データ管理支援人材、大学の各部局それぞれの役割分担の明確化
  - 日本の大学における研究データ管理支援のモデルの確立必要性
  - 上記に基づいた教育プログラムの構築
- デジタルトランスフォーメーションの推進

# データ駆動イノベーション推進本部の部門構成 13



# DX支援・実行 研究データ管理支援部門

研究データの保存・共有・公開のためのインフラを整備するとともに、データポリシー策定、研究データ管理に係る人的支援（データ管理計画（DMP）作成支援、研究データ管理に関する助言、研究データ公開の支援、学生へのリテラシー教育など）を行う。整備するインフラを前提とした研究データ管理の支援の実践を通して、日本の事情に適した研究データ管理支援法の開発と、ライブラリーサイエンス専攻と附属図書館と連携した、研究データ管理支援人材の実践的な育成が、大きな特徴である。



- 今後も社会のニーズや情報流通の変化に応じた「情報専門職」の育成が必要

現時点では、たとえば、

- 研究データ管理を支援する人材の育成
  - 研究プロセス(変化)の理解
  - 対象となる研究データの範囲の理解
  - 研究データ保存・公開における基本的な理念の理解
  - 研究データの保存・管理の理論の理解
  - 研究データ管理支援者としてのマインド
  - 研究データ管理支援実践の場での実習